科目名称	地域・在宅看護論概論	学年学期	単位数	時間数
		第 1 学年　後期	1	30
担当教員	宇都宮　千都	授業に関わる実務経験	■　有　（　保健師　） □　無	

【1】 授業概要

在宅療養が重視され、従来の「在宅看護論」 から「地域・在宅看護論」と名称変更された社会背景には、少子・超高齢社会の進展がある。また、医療提供体制の変化があり、従来の病院中心から在宅あるいは地域中心、住民とのパートナーシップが必要となる。地域・在宅看護論を学ぶ目的や歴史を学び、地域・在宅看護に携わる看護職の役割を理解する。また、健康上の問題を持ちながら居宅で療養している療養者本人とその家族について理解する。

【2】 学習目標

1. 地域・在宅看護の特徴（居宅での看護）を理解できる。
2. 地域・在宅看護の現状と歴史を理解できる。
3. 地域・在宅看護の対象である療養者と家族を理解できる。
4. 地域・在宅看護を支える、医療・福祉・介護体制について理解できる。

【3】 第 1 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

学習目標を達成することにより、次の能力を身につけることにつながります。

■　1. 生活者としての人間の理解
■　2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■　3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■　4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■　5. 多職種との連携・協働
■　6. 地域医療の理解と生活の支援
■　7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	地域・在宅看護とはなにか	講義
2	地域・在宅看護の役割	講義
3	地域・在宅看護を展開するために基本理念	講義
4	地域・在宅看護の変遷①　在宅看護の歴史	講義
5	地域・在宅看護の変遷②　在宅看護の現状	講義
6	第 1～第 5 回までのまとめ	講義
7	対象の理解①　療養者を理解する	講義
8	対象の理解②　　〃	講義
9	対象の理解③　家族を理解する	講義
10	対象の理解④　　〃	講義
11	訪問看護ステーションの機能	講義
12	初回訪問時のマナー	講義
13	訪問看護ステーションの活動①	演習
14	訪問看護ステーションの活動②	演習
15	試験・まとめ	

【5】 評価方法

筆記試験（70 点）小テスト（10 点）　レポート（10 点）グループ演習（10 点）

【6】 教科書

河原　加代子：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤（第 7 版）　医学書院　2026（電子版）

【7】 参考書

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした地域・在宅看護論 I〔概論編〕　日本看護協会出版会
臺有桂ほか著：地域・在宅看護論―地域療養を支えるケア　メディカ出版　　その他は授業で随時提示する。

【8】 受講生へのメッセージ

地域を視野に入れた看護活動を学びます。新たな視点で地域を捉えていきましょう。